

## わかりやすい英語授業のための基礎指導技術

### Basic Skills in Realizing Easy-to-understand English Instruction

三 浦 孝  
Takashi MIURA

（平成12年10月10日受理）

This paper aims at describing the basic skills in teaching English in junior and senior high school in Japan. Particularly, the emphasis is placed on the skills in providing classroom instruction that is considerate and easy for students to understand. Such a directory will be a very useful guide for those college students who are training to be English teachers in the future.

Because of space limitation, this paper focuses on four areas of primary importance that constitute the teaching skills, namely, *text comprehension activities*, *reading the text aloud*, *teaching grammar*, and *team teaching with native-speaker assistant teachers*.

As to *text comprehension activities*, various ways to help students understand the text will be presented, and the advantages and disadvantages of native language translation will be discussed. The next section, *reading the text aloud*, will discuss the importance of helping students become able to read the text aloud. The section on *teaching grammar* will explain how deductive and inductive approaches should be combined for teaching English grammar. The last section will describe how a Japanese English teacher and a native English assistant teacher can cooperate successfully in team teaching.

#### はじめに

ここ15年ほど、言語習得理論や外国語教授理論の世界的規模の急速な発展に伴って、日本の中・高の英語授業の方法も日進月歩の変化を遂げている。英語教師は、旧来の英語授業技術に加えて、ここ15年ほどのコミュニケーション重視の指導技術を踏まえ、更に最新のインターネット利用の授業法をも身に付けてゆかねばならない。

こうした中で、基本を押さえた授業というものがますます重要になってくる。その基本とは、生徒の認知構造に合わせたわかりやすく親切的な授業である。生徒がコンピュータを操作して海外と電子文通したり、教室中を動き回りながら英語を使う新しい授業の中でも、わかりやすく親的に教えるという教師の任務の基本は決して忘れてはならない。さもないと、新しい技術・機器に幻惑されてただ単に教室内をウロウロしているにすぎない生徒を生んでしまう。

大学の英語科教育法を担当して4年、受講生のための授業指導技術の集大成の必要を痛感している。教科教育法用テキストの理論面の充実に比べて、指導技術面への言及はあまり系統的

に集成されているとは言えない。学生が教育実習に行く際に、基本を網羅した指導技術書を持たせたいと思う。そのような理由から、わかりやすく・親切的な英語授業を行なうための基礎的指導技術をリストアップしてみると、次のような項目が挙げられると思う。

- (1) 授業構成法（1時間の授業をどのような項目で構成し、どう配列するか）
- (2) 学習指導案の作成法
- (3) Warm-up の行ない方
- (4) 教科書の内容理解の行ない方
- (5) 音読指導のあり方
- (6) 文法事項の教え方
- (7) 応用段階での活動（含コミュニケーション活動）
- (8) ALT とのティームティーチングの行ない方
- (9) 発問と指名の工夫
- (10) 板書の工夫
- (11) ペアワーク・グループワークの運営法
- (12) テストの分類・良いテストの条件
- (13) 成績評価の方法
- (14) Classroom English の一覧と、使い方
- (15) 生徒の自学自習の指導（含ノートテイキング、予習、復習）

このうち、わかりやすく親切的な授業を行なうためには、当該授業の新教材の理解を図る(4)(5)(6)の活動が特に根幹を成すと思われるので、本稿ではこれらを中心にまとめた。また、ALT とのティームティーチングが日常化する中で、文部省検定教科書を用いたティームティーチングの指導法があまり提案されていないので、本稿では(8)についても言及することにした。ティームティーチングを普通の授業に取り込むことによって、やはりわかりやすい授業の実現を図るものである。以上の理由から、上記のリスト中の下線を付けた項目について、指導技術を集成してここに紹介する。記述にあたっては、技術面を重視するが、その技術がなぜ有効かを理解するのに必要と思われる場合には、理論についても簡潔に言及する。

## 1. テキスト本文の内容理解の行ない方

### 1.1 内容理解活動は何のために行なうか

人間の言語記憶能力は、意味の理解に大きく依存していることは心理学実験で証明されている。被験者に、意味を成すアルファベットの語群（例：whistle, science, peasant）と、意味を成さない無意味語群（例：teswlih, eeccisn, pseatan）を暗記させると、前者の記憶は長期的に保持されるのに対して、後者の記憶は急速に失われてしまう。要するに人間は、意味のわからない言語を記憶することはできないのである。

英語授業に於いても、教科書本文のメッセージ内容が理解できてはじめて、記憶する準備が整うわけである。英語教科書の本文は、中学1年4月の導入時には、1時間にわずか4行程度であるから、生徒の内容理解は容易と言える。しかし、これが中学3年となると、授業1時間で扱う本文は10行を越え、単語数も70語以上となり、内容理解も容易ではなくなる。生徒が内容を理解できないままに授業を進めてしまえば、まさに無意味語を記憶させようとした心理学

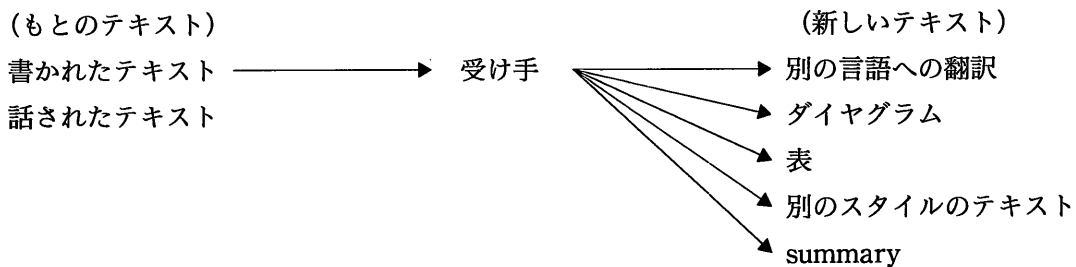
実験と同じことをしていることになってしまう。

### 1.2 内容理解とは何か

最近の言語理論によれば、書かれたメッセージを読んで理解する、話されたメッセージを聞いて理解するということは、受身的な行為ではなく、受け手の能動的な行為であるとされる。つまり受け手は、自分の持っている背景的知識(これを schema と呼ぶ)を働かせて、メッセージとの間で意味の交渉を行ない、自分なりの意味をそのメッセージに付与しているというのである。

例えば、ある神社の入口の階段の横に、「ここではきものをぬぎましょう」という立て札があるとすると。このメッセージは、「ここで履物を脱ぎましょう」とも「ここでは着物を脱ぎましょう」とも読めるわけだが、受け手はその立て札が風呂屋ではなく神社に有るという状況から、背景的知識を働かせて、履物の意味をメッセージに付与するのである。

したがって内容理解とは、テキストのメッセージと受け手との、意味の交渉の産物だと言える。この意味の交渉のプロセスが十分であれば、内容理解は深まるのだ。では授業でどうやって、意味の交渉のプロセスを実現できるのだろうか。それは、受け手がテキストを別のフォーマットに変換する作業を通じて行なわれると考えられる。具体的には次のような変換である。



こうした作業で、受け手はもとのテキストにある情報を、新しいテキストへ移し替えてゆく。もちろん、テキストが長くなれば、移し替える情報量も増加する。受け手は、もとのテキストと新しいテキストとの間を何度も行き来しながら、この作業を行なってゆく。これがテキストと受け手との意味の交渉になるのである。以下、これら各種の変換作業について解説する。

### 1.3 日本語訳の問題

#### (1) 日本語訳についての賛否両論

テキストを別の言語に翻訳する中で最も一般的なのが、母語訳である。実は外国語教育で用いられてきた意味の交渉プロセスの中で、非常に誤り導きやすいものが母語訳、我々の場合は日本語訳である。日本語訳への賛否両論を検討してみよう。

#### 賛成論：

- (1) 英語教育は、日本語教育をも兼ねている。したがって英語授業では生徒に英語の特質を理解させると共に、日本語の特質をも理解させるべきである。
- (2) 我々は日本語に依存して物事を思考している、日本語は我々の知的武器である。英語学習に於いても、理解の道具として日本語を活用すべきである。
- (3) 英語の具象的な語は日本語を介在せずに理解が可能であるが、抽象的な語は日本語訳を与

える方が近道である。

#### 反対論：

- (1) 英語を日本語に置き換えたからといって、内容が理解できたわけではないのに、教師も生徒も訳すと安心してしまう。
- (2) 英語の定期テストに、生徒が日本語訳のまる暗記で対応するような、本末転倒の学習態度を生んでしまう。
- (3) 日本語訳に依存していたのでは、ナチュラルスピードのリスニングに連いてゆくことはできないし、リーディングのスピードも伸びない。
- (4) 授業の中で、テキストを日本語に訳す作業が時間をくい、英語を実際に使う活動がおろそかになる。

以上をまとめてみると、訳を授業のメインに据えるのではなく、あくまでも英文テキスト理解の一助として限定的に用いるならば、日本語訳もあながち否定はできない。もちろんその間にも、英語を英語のまま理解する活動を併用し、その力の伸張を図るべきことは言うまでもない。

授業における日本語訳が批判される最も大きな理由は、日本語訳そのものの問題というよりも、それ以外に何の工夫も無い訳読一辺倒の授業法にあると思われる。日本語訳をしたらその次に何を行なうか、それが問われているのである。

#### (2) 日本語訳における訳語のバリエーションの問題

英語と日本語の間には、一対一の対応関係があるわけではない。だから一つの英文に対して、幾通りもの日本語訳が可能である。例えば次のような英文を考えてみよう：

(例文は Sunshine English Course 2, Program 11 より)

Ever since he was a boy, Lorenz has studied animals.

(子供 (だった (頃 (から (ずっと、ローレンツは動物 (を (研究 (して (きました。  
(少年 (の (時 (以来 (について (勉強 ( (います。

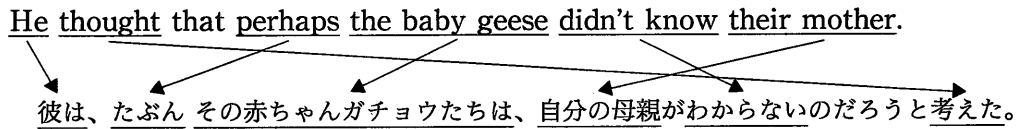
なんと、これだけでも日本語訳のバリエーションが10以上ありうる。問題は、生徒がせっかく正しく訳せていても、それが教師の訳とちがうと自分の訳を否定してしまうことである。あるいはテストの答案で、内容的には正しい訳でも教師の与えた訳とちがうからというだけで、誤答扱いされてしまうことである。このようなことを繰り返すと、生徒は自分が本当は力を持っているのに自信を失っていつてしまう。

これへの対策として教師は生徒に、複数の日本語訳がありうることを常に強調する必要がある。また多少教師の訳はとちがっていても、内容を理解していると思われる生徒の訳は positive に扱うべきである。

#### (3) 日英の語順のちがいの問題

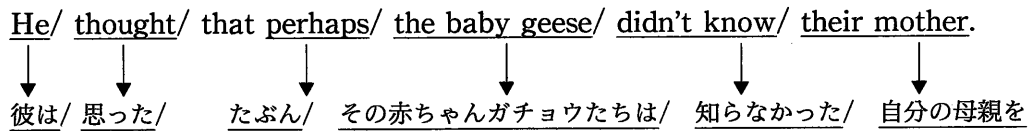
周知のとおり、英語の文構造は日本語のそれとは大きく異なっている。そのため、英文を整った日本文に訳そうとすると(正式訳)、うしろから前へ訳したり、あちこち飛びながら訳すことになり、非常に煩雑である。一方、こうした不自然さを解消するために、英文を頭からフレーズごとに訳してゆく方法もある(語順訳)。両者の長所・短所を比べてみよう。“He thought that perhaps the baby geese didn't know their mother.”という文を例にとって見てみよう。

正式訳



見てのとおり、整った日本語になりはしたが、交錯した矢印が示すように、語順の変換が大変複雑になっている。つまりこの作業は、単なる英文の内容理解活動にとどまらず、日本語の作文練習をも含んでいる。また、学力の低い生徒がこの訳語を与えられた場合、どの英語語句がどの日本語語句に対応するのかが、理解しにくい。

語順訳



この場合、語順変換の煩雑さは解消され、語句同士の対応関係もはっきりしている。英文を頭から理解するので、読解スピードは向上する。また、頭から理解する習慣はリスニングに於いて非常に有効である。ただし、この訳語が日本語として不自然だという欠点は残る。

以上、両者の長所・短所を比較したが、授業ではどちらが望ましいだろうか。低学年では、一文が短いので正式訳で問題はなかろう。学年が進行するにしたがって、筆者は語順訳を使用すべきだと考える。なぜなら、我々が担当するのは英語の授業であって、翻訳の授業ではないからである。もちろん生徒に「これはあくまでも内容理解のための変則的訳である」と断った上での話しである。

先述したように内容理解とは、書かれ・話されたテキストのメッセージと受け手との、意味の交渉のプロセスである。それは、受け手がテキストを別のフォーマットに変換する作業を通じて行なわれると考えられる。そのフォーマット変換の一つとして、ここでは日本語訳を検討した。次のセクションでは、その他のフォーマットへの変換方法を紹介する。

1. 4 日本語訳以外の内容理解活動の各種

(1) ダイアグラムへの変換

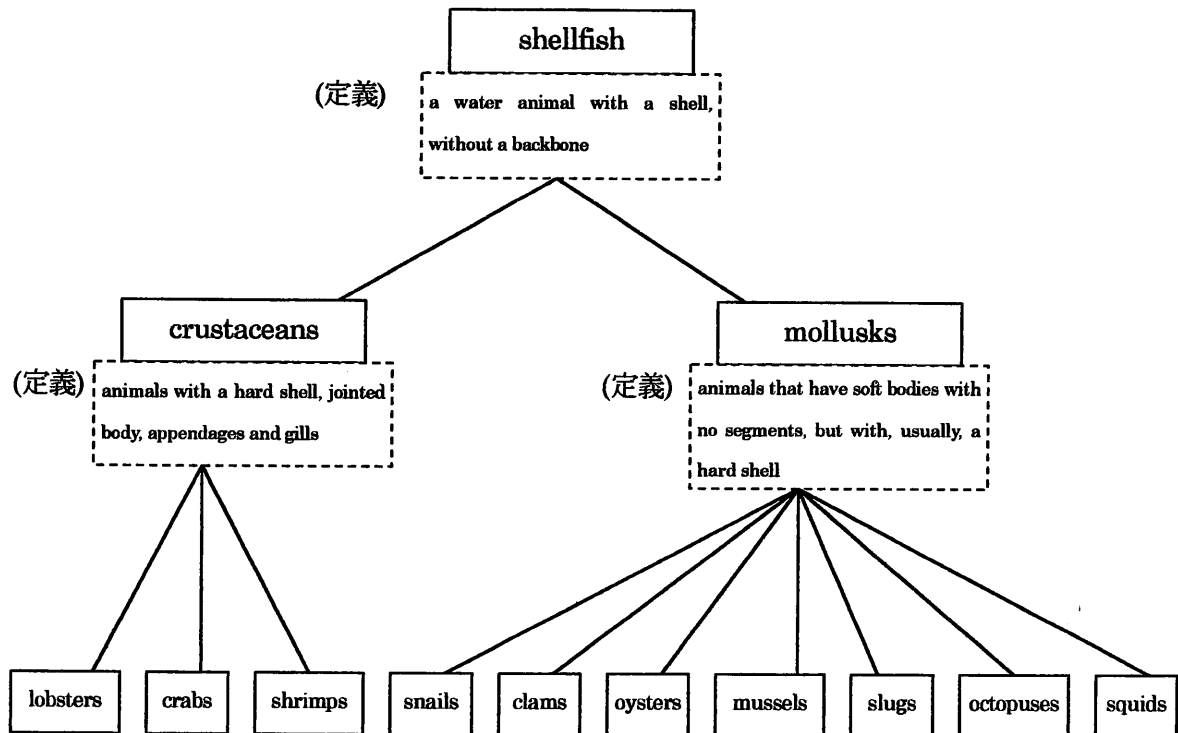
読んだり聴いたテキストを、文章でなく論理構成図(ダイアグラム)に変換することで内容理解を図ることができる。これは、科学的論文や仕様説明書といった、論理整然としたテキストの理解に適している。次に述べるのはその一例である：

もとのテキスト

A shellfish, despite the name, is not a fish. In the minds of many restaurant customers, it is just another word for seafood. Some will say that the only kind of fish they like is shellfish. While their mistake is understandable, since both

live in the water, shellfish are not really fish. A fish has a backbone; a shellfish doesn't. A shellfish is a water animal with a shell, for example a crustacean or a mollusk. Crustaceans are animals with a hard shell, jointed body, appendages, and gills. Lobsters, crabs and shrimps are three examples. Mollusks have soft bodies with no segments, but with, usually, a hard shell. Snails, clams, oysters, and mussels are mollusks. So are slugs, octopuses, and squids, even though they don't have shells. (*Paragraphs That Communicates* より)

### ダイアグラム変換



完成したダイアグラムを見ると、もとのテキストよりも内容が簡潔に整理されているのが特徴である。

### (2) 表への変換

表への転換は、幾つかの人や物を比較対照したテキストの理解に適している。以下にその例を述べる：

#### もとのテキスト

George Washington and Abraham Lincoln, two of America's greatest presidents, were very different from one another. Washington was from a wealthy family, but Lincoln's family was poor. While Washington had a career as a

military man, Lincoln was a lawyer. Washington retired from the Presidency after his second term and died peacefully at his estate. In contrast, Lincoln was assassinated after his election to a second term. (「パラグラフ英作文」, p.72より、筆者一部改変)

#### 表への変換

| 人 名               | 出 身 | 前 職 | 人生の終わり方 |
|-------------------|-----|-----|---------|
| George Washington | 金持ち | 軍人  | 引退→平和な死 |
| Abraham Lincoln   | 貧乏  | 弁護士 | 暗殺された   |

ここでも、完成した表を見ると、テキスト内容が、原文よりもはるかに簡潔に表中に整理されていることがわかる。

#### (3) 図への変換

図への変換は、物事の操作や制作手順を述べたテキストの理解に適している。ただし、授業で図を描かせている時間は無いので、図はあらかじめ教師が作成しておき、それを順不同で提示して生徒が正しく並べ替える方式が良い。例えば中学教科書 One World English Course 2, Lesson 9-3 (p. 66) のジャック・オ・ランタンの作り方図が参考になる。

#### (4) 別のスタイルのテキストへの変換

対話文のテキストを書き下し文に変換したり、長い文章をサマリーに変換するなどの作業を通して、内容理解を図る。何もヒントなしに行なうと負担が大きいため、空所補充式にして変換文を完成させる方式をとるとよい。下の例は、電話の会話を聞いて、伝言メモを完成する方式である。

#### もとのテキスト(電話の会話)

(*Mr. Clarke, a high school teacher, is calling Ms. Brown, one of his student's parent.*)

Mr. Clarke: Hello. May I speak to Ms. Brown, please?

Cleaning lady: I'm sorry she's out now. Do you want to leave a message?

Mr. Clarke: Yes, please. I am Mr. Clarke, Jackey's teacher. Jackey had a big fight with one of her classmates last week and broke her arm. She has been absent from school since then. I want to talk to her parent as soon as possible. My office phone is 869-2253-1313.

Cleaning lady: Okay. I will give her your message.

#### 変換後のテキスト

受付係は急いで *Ms. Brown* にファックスを送りました。下線部に適語を記入してファックスを完成しなさい。

Dear Ms. Brown,

Mr. Clarke, Jackey's \_\_\_\_\_ has just called you. He wants to \_\_\_\_\_ to you.

\_\_\_\_\_injured her classmate last week and has not attended\_\_\_\_\_since then.  
Mr. Clarke's\_\_\_\_\_is 869-2253-1313. Please\_\_\_\_\_him as soon as you can.

## 2. テキスト本文の音読指導のあり方

テキスト本文の音読とは、テキストの本文を声に出して朗読することを意味する。ただし会話文の場合には、単なる棒読みではなく、意味を汲みとった上で表情をつけて相手に向かって発話することをもそれに含める。

### 2. 1 音読軽視は英語上達の命取り

今日、テキストの音読をあまり重視しない傾向があるように思う。筆者が昨年行なった調査では、かなりの中学・高校の英語授業で、1授業時間内の音読回数が4回以下のところが大半を占め、最も少ないところではわずか2回しかなかった。これではあまりに少ない。筆者は、音読回数は英語学力に正比例すると考えている。1時間の授業で手を変え品を変えて8回は音読するべきである。なぜ音読はそれほど大切なのだろうか。その理由を下記に述べる：

#### (1) 読めない単語は覚えられない

音読が必要な第一の理由は、「読めない単語は覚えられない」という法則である。言語は、人間の頭の中では音声信号として伝達・処理されている。耳から聴いた言語はもちろんのこと、目で見た文字言語も、人間は映像としてではなく音声として脳内で処理している。

例えば電話番号を覚える時を考えてみよう。054-237-8695という番号をあなたはどのようなふうに記憶しているだろうか。「ゼロ・ゴ・ヨン・ニ・サン・ナナのハチ・ロク・キュウ・ゴ」と音声化して記憶しているはずである。こうしなければ脳内で処理できないのだ。

したがって英語の学習で、習った単語を発音できるようにすることは、記憶するために不可欠な条件なのである。

#### (2) 十分な音読で脳内回路が増強される

大脳生理学(「NHKサイエンススペシャル 脳と心」)によると、同じ脳内回路に何度も同じインパルス(電気信号)を流すことでその回路にLTP(長期増強)現象が起きる。これは短気記憶とは比較にならないほど長期にわたって保持される回路を形成する。

#### (3) 自分の朗読の声は有効なインプットである

言語習得は、自分の現在の言語能力をほんのわずかに上回る言語インプットを、受けて理解することを通して促進されると言われている。音読している時、人は自分の音読の声を同時にインプットとして聞いているのである。これが言語習得を促進するのだ。

以上、音読の大切な理由を説明した。英語教師の大切な任務の1つは、生徒が既習範囲をスラスラ朗読できるところまで達成して家に帰すことである、そのためには授業時間内にテキストを8回以上音読させたい。

### 2. 2 音読指導の手順

生徒を飽きさせずに、効率的に、十分な回数の音読を実施するための手順を述べよう。必ずしも全部を行なう必要はないが、次のようなステップが考えられる。

#### (1) テキスト本文の意味の理解

必ず内容を理解したあとで音読に入ること。その順序を逆にすると、意味のわ



- ↓  
からない無意味語を発音させることになり、効果は薄い。
- (2) 教師による範読  
↓  
範読はナチュラルスピードを原則とし、不自然にゆっくりにしないこと。
- (3) 教師のフレーズ切り読み  
↓  
あらかじめノートに筆写してきた英文にフレーズ区切りを入れさせる。  
長い英文を、どこで区切るかを生徒は迷うので、フレーズ切りのモデルを示すこと。
- (4) 教師のあとについてフレーズごとにリピートさせる  
↓  
生徒が発音しにくい箇所では、backward build-up といって、最後から少しずつ語数を増やしてリピートさせる。例えば“they had a lot of problems”が言いにくい場合には、“problems”をリピート→“of problems”をリピート→“lot of problems”→“a lot of problems”→“had a lot of problems”→“they had a lot of problems”をリピート、というふうに積み上げる。
- (5) 教師のあとについて2度リピートさせる  
↓  
[教師]“they had a lot of problems”→[生徒]“they had a lot of problems”→[生徒]“they had a lot of problems”というふうに、一度目はテキストを見ながら、二度目はテキストを見ずにリピートさせる。
- (6) 各自読み  
↓
- (7) 教師と同時読み  
↓  
教師と同時進行で生徒に小さな声で音読させる。これによって、遅くなりがちな生徒の読みのスピードを維持させる。
- (8) リズム読み  
↓  
英語のリズムに乗って音読する。リズムを意識させるために、強いところでは机をノックしながら読ませるとよい。リピートでも同時読みでもよい。
- (9) read and look up  
↓  
テキストの1文あるいは1フレーズを、まずテキストを見ながら音読し、直後に目を外してリピートする。自分が今読んでいる部分へ目を戻しやすくするために、その箇所を指で押さえながら行なうとよい。これは生徒の家庭学習にも使える練習である。
- (10) 挙手させて音読させる  
↓  
全員の前で音読させるので、自発的に立候補した生徒に読ませるなどして、恥

をかかせない配慮をすること。一旦音読を開始したら、途中で教師が干渉することは避け、独力で最後まで読みきらせること。さもないと、小さなミスのために文頭へ返ったり指示を仰いだりする神経質な読み癖をつけてしまう。

(1) 時間制限読み

テキストの1セクションを、付属朗読テープが読む所要時間の1.2倍程度の制限時間内に読みきらせる練習を言う。単語を1個1個ぶつ切りで読む状態を脱し、文をなめらかに通して読めるようにするために行なう。

こうした目標を与えることにより、それを達成するために生徒がテキストの英文を何十回となく頭に通すことにも意義がある。

(2) 時間制限暗唱

朗読テープの所要時間の1.5倍程度の制限時間内に1セクションを暗唱して言えるようにする練習。一見機械的に見えるが、実は大いに意味が関係している。一連の文を暗唱するためには、話しの流れを想起し、「この次はこうなるはずだ」という思考をめぐらさねばならない。

(3) インフォメーション・ギャップ読み

生徒にペアを組ませ、テキストの対話文をもとに、それぞれが自分のセリフだけしか見えないようにして対話練習する。例えば次のように、ペアに別々のハンドアウトを与えて行なう。

| (Ken 用)                                      | (Tom 用)   |
|--|---|
| Ken : How do American students go to school? | Ken : _____   |
| Tom : _____                                  | Tom : Most students go to school by bus.<br>Look at the school buses. |
| Ken : Are they all yellow?                   | Ken : _____   |
| Tom : _____                                  | Tom : Yes. They pick up students near their houses.                   |
| Ken : Oh, good for them.                     | Ken : _____   |
| Tom : _____                                  | Tom : Not really.<br>Many schools are far from their houses.          |

(New Crown English Series New Edition 1, Lesson 9 より)

この方式だと、自分の話すタイミングを知るために、相手のセリフをしっかりと聞く必要に迫られる。かなり本物の対話に近づいた練習ができる。

(14) 逐次通訳読み (できたペアから座る)

テキストの1セクションの英文を使ってペアで行なう。一方の生徒がテキストの英文を1フレーズごとに和訳して相手に聞かせる。相手は、和訳を聞いてそれを英語に復元して返す。クラス全員が立って行ない、終了したら役割を交替してもう1ラウンド行ない、それが終了したペアから着席する。

例：

テキスト英文：Mr. and Mrs. Greenwood took Jesse/ to their house./ They were kind/ and Jesse had a warm place to sleep./ But Jesse was not happy./ (*New Crown English Series New Edition 3, p. 17* より) を使って

(生徒 A)

(生徒 B)

|                             |   |                                     |
|-----------------------------|---|-------------------------------------|
| Greenwood 夫妻は Jesse を連れていった | → | Mr. and Mrs. Greenwood took Jesse   |
| 彼らの家へ                       | → | to their house.                     |
| 彼らは親切だった                    | → | They were kind                      |
| そして Jesse は暖かい寝る場所を得た       | → | and Jesse had a warm place to sleep |
| しかし Jesse は幸せではなかった         | → | But Jesse was not happy             |

### 2. 3 家庭学習としての音読指導

人間の記憶は、一度学習したことを24時間以内に繰り返すと定着が高くなる。音読を家庭学習としても奨励し、その日のうちに学習範囲を5回以上大きな声で朗読するよう指導したい。また自分の朗読をテープに録音して聞き返すことは、大変良い発音の自己チェックになるので、これを奨励し、時折りテープを提出させて評価したい。

### 3. 文法事項の教え方

中学校の英語教科書の1時間分のセクションには、重点となる文法事項が大体1つずつ配置されている。その文法事項を含んだ文を、その日の key sentence と呼ぶ。文法事項の指導は普通次のような手順で行なう。(Sunshine English Course 2, Program 11 を例として用いる。)

①まず、その日の key sentence の意味を理解させる。

(板書例) 本日の key sentence

|        |                    |         |             |
|--------|--------------------|---------|-------------|
| Lorenz | <u>has studied</u> | animals | since 1920. |
| ローレンツは | <u>ずっと研究してきました</u> | 動物を     | 1920年以來     |

②次に、文法法則を、帰納的・演繹的の両方を用いて提示する。帰納的提示とは、当該の文法事項を含んだ実例を豊富に見せ、その中から生徒にルールを発見させる方法である。生徒が言語データから言語法則を自ら類推する力を養うので、自立した learner を育てる上で有用である。演繹的提示とは、まずルールを与え、次いでそのルールを応用させて理解を養う方法である。どちらが得意かは生徒によって個人差があるので、授業では両方を併用することが望ましい。また、演繹的提示では、不用意に文法用語を乱用して生徒を混乱させることのないよう心がけたい。下記に、双方の説明の板書例を記す：

### 帰納的提示の板書例

|   |   |  |
|---|---|--|
| (1) I was born in Shizuoka in 1987.                                     |   |  |
| (2) I became a member of Girl Scout in 1993.                            | → | I have been a member of Girl Scout since 1993. |
| (3) I started Judo in 1996.   | → | I have practiced Judo since 1996.              |
| (4) I used computer for the first time in 1998.                         | → | I have used computer since 1998.               |
| (5) I started English lessons in 1999.                                  | → | I have studied English since 1999.             |
| (6) Ms. Yamada is our English teacher.<br>She became a teacher in 1980. | → | She has taught English since 1980.             |
|   | → |  |

「ある時から今までずっと～してきました」の表現

I have lived in Shizuoka since 1987.

I have been a member of Girl Scout since 1993.

I have practiced Judo since 1996.

I have used computer since 1998.

I have studied English since 1999.

She has taught English since 1980.



上の文に共通する部分は何だろうか？下線を引いてみよう。

(6)だけ、上の5つとは異なる点が1つある。なんだろうか？

### 演繹的提示の板書例

例文： I have studied English

(1) since 1999.

(2) since I entered junior high school.

ルール： have  
+ 動詞の過去分詞  
(has) で

「今までずっと～してきた」を表す  
この形を現在完了形という

(1) since+年号、月、日付、時刻 = ~以来

(2) since+主語+動詞 = ~が～して以来

### ③新出の文法事項がわかるとどんなに便利かを理解させる。

新しい文法事項を導入する時、生徒に「また勉強の負担が増える！」と思わせないように、むしろそれを学ぶことによって広がる自由や便利さをわからせたい。例えば、上で扱った現在完了形の提示では、便利さをこう説明してはどうだろう：

一郎さん (25歳) が、おさななじみの Cindy に愛を告白しています。

Ichiro: Cindy, please marry me. I loved you when I was 15, when I was 16, when I was 17, when I was 18, when I was 19, when I was 20, when I was 21, when I was 22, when I was 23, when I was 24 and now when I am 25.

Cindy: So you have loved me since you were 15.

Ichiro: Yes, that's right!

### ④練習によって理解を深める。

適語補充や部分的英作文、語変形などを用いて理解のための練習を行なう。

(語変形の例) 文末の語を正しく変化させて \_\_\_\_\_ に補いなさい。

1. We have \_\_\_\_\_ here since 1940. (live)

(適語補充の例) 日本文と同じ内容を表すように ( ) に適語を補いなさい。

1. How long ( ) you ( ) English?

あなたはどれだけ長く英語を勉強してきましたか。

⑤小テストによって全員の理解を確認する。

⑥コミュニケーション活動で実際に用いてみる

目標たる文法事項を含む英語を用いて、生徒同士で実際にコミュニケーションを行なって習熟を図る。上述の現在完了形を用いたコミュニケーション活動の例を下に記す：

- i) クラスを4人ずつのグループに分けて着席させ、グループ員に1から4までナンバーを付ける。
- ii) 生徒全員に、1問ずつ現在完了形を用いた質問を作らせる。ナンバーに応じて、使う動詞を指定する。例えば No.1 の生徒は “Have you ever been to …?”、No.2 は “Have you ever seen …?”、No.3 は “Have you ever eaten …?”、No.4 は “Have you ever read …?” を用いた質問を作ることとする。なお、これ以外の動詞を使った質問を思いついた生徒は、それを使ってよいとする。
- iii) 質問ができれば、まずグループ内で互いに問答しあう。
- iv) 次に、全員が立ち上がって、自分のグループ以外の人に質問してまわる。返事の “yes” と “no” の数をメモして、あとで報告できるようにする。制限時間内にできるだけ多くの人に質問する。
- v) 再び全員着席して、有志の生徒に、自分のインタビューの結果をクラスに報告してもらおう。報告用に次のような英語モデルを与えておく：  
Hello, everyone. My name is Reiko. My question is “Have you ever seen a koala?”  
I asked this question to 15 classmates. Six answered “yes”, and nine answered “no”. That’s all. Thank you very much.

#### 4. ALT とのチームティーチングの行ない方

ALT (Assistant Language Teacher) は、アメリカ、カナダ、イギリス、オーストラリア、ニュージーランド出身のネイティブ・イングリッシュ・スピーカーで、JET Program で各県や市町村教育委員会に派遣され、中学・高校の英語授業を日本人教師と共同で担当する者をいう。学歴は大卒以上であるが、必ずしも英語教育の専門家というわけではない。

ALT の配属形態には、不定期に訪問する形態、定期的に (例えば週1回) 訪問する形態、同一校に常駐する形態があるが、制度の充実に伴って定期訪問および常駐の形態が多くなってきている。これまでは1回かぎりのゲームで済ますことが多かったが、これからは平常の授業で検定教科書を使ったチームティーチングを目指すべきである。このような方針から、下記の指針を作成した。

##### 4. 1 ALT とのチームティーチングの果たす役割

- (1) JTE (Japanese Teacher of English) と ALT とが対話しながら授業を進める姿を見て、生徒は英語が生きたコミュニケーションの手段であることを体験学習する。(例：ALT と

JTE との挨拶、モデル会話の実演)

- (2) ALT のネイティブの英語が自分にも理解できることを体験する。例：ネイティブの説明を聞いて→地図上を旅行、図表を完成、絵を再現)  
\* 英語が国際コミュニケーションの道具となり、非母語話者同士による英語コミュニケーションが主流となった今日、「本物の英語」ともはや言うべきではない。
- (3) 自分の英語をネイティブに通じさせることができたということを体験する。(例：生徒がALT に紹介・質問・案内などをする。)
- (4) JTE と ALT で、特定の学校・クラスに適した補助教材を自作する。JTE は「生徒に理解できる英文かどうか」を、ALT は「自然な英語であるか」で貢献しあうことができる。
- (5) ALT に出身国の文化や習慣の first-hand knowledge を提供してもらう。
- (6) 一方の教師が主役になっている間に、他方が机間巡視して個別質問に応じるなど、全体に対する指導と個に応じた指導を同時進行できる。

#### 4. 2 授業の各場面における ALT の活用例

- (1) 始めの挨拶：

JTE と ALT が生徒の前で挨拶や small talk (世間話) をして見せる。

(例)

*JTE : Good morning, Bill. How are you?*

*ALT : Fine, thank you. How are you?*

*JTE : I'm fine, too. Thank you. Bill, did you watch the volleyball games on TV last night?*

*ALT : You mean the women's game between Japan and Italy?*

*JTE : Yes.*

*ALT : Of course I did. I cheered for the Japan team.*

アドバイス：あらかじめ何を話すか打ち合わせておき、生徒にわかりやすく話すこと。

アドバイス：生徒にとって未習の表現が出てきた時は、直後に「Bill もバレーボールを見たと言っていますね。『I cheered for the Japan team.』と言っているから彼も日本チームを応援したんですね。」と、部分的にフォローしてもよい。

- (2) 前時の復習

復習その1：summarizing

JTE が前時の内容を英語で summarize し、ALT がそれを繰り返す (parrot) たり、関連質問 (clarifying questions) する。

*JTE : Let's review our last class. We studied Jane's letter.*

*ALT : In your last class you studied Jane's letter.*

*JTE : Right.*

*ALT : What did Jane write to Kumi?*

*JTE : She thanked Kumi for her birthday present.*

*ALT : Uh huh. Speaking of letters, I am interested in Japanese-style letters.*

*JTE : Oh, are you?*

ALT : *We usually start letters with "Dear ...". How do Japanese people start letters?*

JTE : *We usually start letters with "Haikai".*

ALT : *I see.*

アドバイス：こうした会話はあらかじめJTEがALTの助けを得て用意しておく。このような準備作業を通じてJTEは英語力を伸ばすことができる。

### 復習その2：復習リスニング

ALTが前回の内容について、Say True or False, 英問英答, dictationなどの問題を出し、生徒が解答する。

### (3) 本時の教材の introduction (導入)

JTEとALTが、本時の話題について対話する。新出語や重要語は、その都度フラッシュカードで示しながら行なう。下記の例は *Sunshine English Course 2* の Program 7 の 1 を導入時の例である。

JTE : *Oh, you have a video, Michael.*

ALT : *Yes, I have a piece of news in it.*

JTE : *Is it good news or bad news?*

ALT : *It's bad news about West India. People and animals are dying.*

インド西部では人間や動物が死にかけているんだって。何が起きているのでしょうかね。

(ALT turns on the Video, and pauses at the scene of the desert.)

JTE : *It is a desert.*

ALT : *Yes, a desert. There's no water, no plant. But listen. There were plenty of water and big forests here 10 years ago.*

JTE : *Excuse me, but what does "forest" mean?*

ALT : (drawing a picture of a forest) *You have trees all over. It is a forest.*

How do you say "forest" in Japanese?

JTE : *Let's ask students. How do you say "forest" in Japanese?*

Student : *"Mori."*

ALT : *Oh, thank you very much. I have one more question. How do you say "desert" in Japanese?*

Student : *"Sabaku."*

ALT : *Great! "Desert" is "sabaku" in Japanese. Now, there was "mori" here 10 years ago, but now there is only sabaku. こまりましたね。*

JTE : *The desert is becoming bigger and bigger. The desert is spreading. We must stop it.*

ALT : *The forest is becoming smaller and smaller. We must save it.*

JTE : *How can we save our forests? We will find an answer in Program 7.*

(このようにして新出語の dying, desert, forest, becoming, spreading, save を会話で導

入し、同時にフラッシュカードで提示する。)

アドバイス：こういう英語だけの対話は、長く続けるとフォローできない生徒を生む可能性がある。フラッシュカードで意味確認をしたり部分的に日本語を入れたり、会話に生徒を巻きこむなどして理解をつなぎとめる。上の波線部がその努力部分である。

アドバイス：ここでは、砂漠化問題の深刻さを伝えるために、BS 1チャンネルのイギリスBBC放送録画を使っている。英語教師は、授業で使えるような写真・映像・音声・実物・新聞・ポスターなどの収集を常に心がけておくと、5年後くらいには一通りのコレクションができる。

#### (4) 本時の重点事項の導入や応用

その1：新出語の発音練習をALTにやってもらう。

その2：テキスト本文の内容理解質問をALTに出題してもらう。

先ほどセクション1.2(内容理解とは何か)で述べたように、内容理解はテキストと受け手との間の意味の交渉を通して生まれるものであり、1.4で示したように日本語訳を介さない内容理解活動が各種存在する。ティームティーチングは、ダイアグラム・表・図・別のスタイルへのテキスト変換作業を通して内容理解を図る良いチャンスである。

アドバイス：テキスト変換作業の原案はJTEが用意すること。JTEは「生徒に理解できる英文かどうか」を、ALTは「自然な英語であるか」をチェックしあうとよい。また、内容理解をチェックする質問には下記の形式がある。

- (1) Say True or False 式  
Many of our forests are dying. (true/false)
- (2) Choose correct answers 式  
(a) dying.  
The desert is now (b) spreading.  
(c) losing.  
(d) nothing.
- (3) Answer in English 式  
1. Are many forests becoming deserts now?  
2. The desert is now spreading fast. Do we have to stop it?

#### その3：文法事項の communicative な導入や練習

一般に、ALTは日本の学校で英文法を教える訓練は受けていない。ALTにも個人差があつて一概には言えないが、ALTは文法指導が必ずしも得意だとは言えない。ただし、セクション3(文法事項の教え方)の③で述べた帰納的提示や⑥の文法事項を用いたコミュニケーション活動では大いにALTの貢献が期待できる。



#### その4：教科書本文のモデル・リーディング

ALT に教科書を音読してもらい、生徒がリピートする。先述のセクション2.2の(2)(3)(4)(5)(7)(8)の練習などは ALT に最適である。

#### その5：コミュニケーション活動

これこそ、ALT が最も活躍できる部分である。ALT は来日時の事前研修などを通じて、コミュニケーション活動の資料・訓練を受けており、アイデアも豊富である。実施する際には、やり方(directions)も ALT に説明してもらうようにすると、なおさら英語らしい雰囲気になる(その際は、JTE は援助の必要なグループに行き、補助的説明をする)。

アドバイス：生徒が一斉に動き回ってコミュニケーションを行なうインタビューのような場合には、その中で生徒が ALT に話しかけられるよう工夫する。

### 4.3 ティームティーチングを成功させるための心得集

#### (1) 事前打ち合わせで授業目的をはっきりさせる。

JTE はあらかじめ team teaching plan を書き、ALT に提示して共通理解を図ること。その際に、クラスの状況についても正直に説明しておくこと。アルファベットで書いた seat map(座席表、個々の生徒について追加情報が入るとなお良い)を用意すること。

Team teaching plan は下記の項目で作成する：

Date:

Class (grade, number of students):

Materials (教科書もここに含む) :

Aim (本時の目標) :

Procedure (指導手順) :

#### (2) 終了後に、ALT と evaluation のミーティングを持つこと。どの点が成功し、どの点が問題として残ったかを率直に出し合う。一般的に言って ALT は、問題点を隠すことを嫌い、包み隠さず話し合うことの方を歓迎する。

#### (3) ティームティーチングでは、ペアワークやグループワークが多用される。普段から生徒をこのような授業形態に慣れさせておくとよい。また、JTE が普段から少しでも英語で授業を行なうようにしておくと、生徒がティームティーチングに自然に入ることができる。

### おわりに

以上、普段の授業の中核を成す内容理解活動、音読指導、文法事項提示のテクニックと、検定教科書を使った ALT とのティームティーチングのテクニックをまとめて紹介した。先述したように、実はこの2つのテクニックは互いに密接に関連しているのである。日本語訳に依存しない内容理解活動を心がけていれば、ALT 訪問時にもそれが利用できる。音読指導に於いても、リズム読みでは ALT が活躍する。普段から帰納的文法提示に慣れさせておけば、ALT に豊富に具体例を出してもらって、生徒がその中から法則を導き出すことも容易になる。ただし

ALT が最初からこうした指導法を理解しているとはかぎらない。日本人教師の側が、日本の教室に合った指導法を ALT に教えてゆくことによって、それが可能となるのである。本稿では、指導技術集成の最初の試みとして、わかりやすい授業の基本となる 4 項目を紹介したが、今後他の項目についても集成を積み上げてゆきたい。

#### 引用文献

- 北尾, S. キャスリーン・北尾謙治 (著) 1995. 「パラグラフ英作文」英潮社
- 佐々木輝雄, 他. 1995. *One World English Course 2*. 教育出版 p.66
- 島岡 丘・青木昭六・松畑熙一・和田 稔, 他. 1999. *Sunshine English Course 2*. 開隆堂
- 中村 敬・若林俊輔, 他 (編) 2000. *New Crown English Series New Edition 1*. 三省堂
- NHK 取材班 (著) 1993. 「NHK サイエンススペシャル 脳と心」
- Jinbo, H. and R. B. Murto. 1996. *Paragraphs That Communicate*. Macmillan. p.66